

主題：「東日本大震災における消防団の活動と今後の課題」
－住民の安心安全を陰で支えた人々が直面した大震災の実態－



主催： 東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻 消防防災科学技術寄付講座
会場： 東京大学 山上会館大会議室
日時： 平成 24 年 6 月 11 日(月) 13:30～17:00 (13:15 開場)

● 趣 旨

消防団は、全国で約 2,300 団、約 88 万人の非常勤特別職の団員で構成され、市町村毎に、地域に密着して住民の安心安全を日々守っている組織です。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、津波によって多くの常備消防機関が無力化された状況下において、被災地の消防団は直ちに救助・消火活動に携わり、その後は遺体捜索から夜間警戒等、住民の期待に応えるべく、長期間かつ多様な活動を行ってきました。反面、災害に最前線に対峙することとなった消防団の被害は甚大で、消防団員の犠牲者は、死者 254 名・行方不明 2 名を数え、流された消防団車両、拠点箇所(屯所)も各々 261 台、420 カ所 と過去に例を見ない規模になりました。

今回の震災に限らず、過去の大規模災害においても、消防団は住民の安心安全のために多大な貢献をしている筈なのですが、各団員の本業が忙しいこともあってか、貴重な団員の活動記録が残されることは非常に限られています。震災後、当講座では、津波火災のあった地域の消防団を対象に、災害の中で活動がいかになされたのか記録にとどめるとともに、今後発生が懸念されている大地震時に、二度と今回のような消防団の被災者をださないための資料になればとの思いでヒアリング調査を行ってきました。

今回のセミナーでは、当講座で行った調査内容の紹介と、現地の消防職団員、地域防災の専門家の方々から東日本大震災の消防団の活動と課題について報告し議論できればと考えて企画いたしました。

皆様のご参加をお待ちしています。

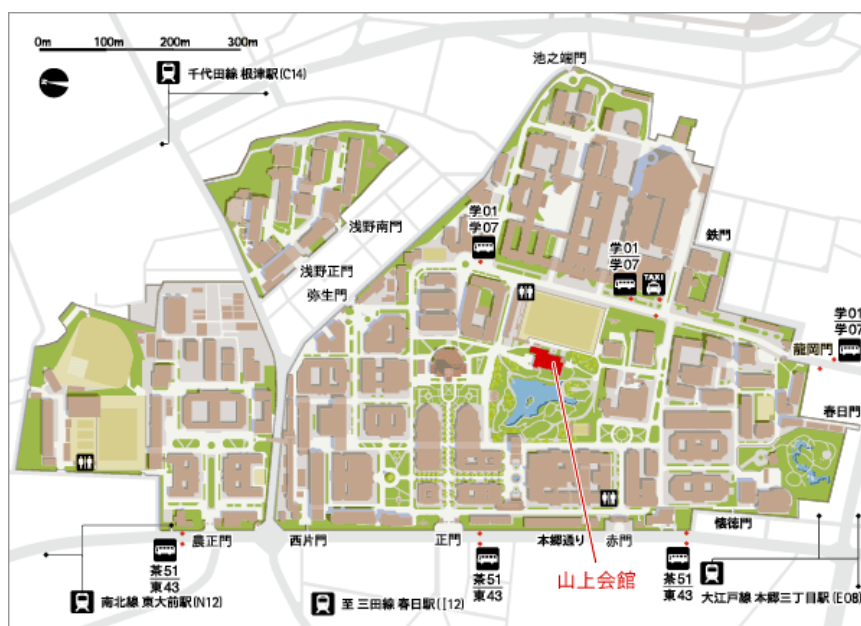
● 講演内容 (一部のタイトルに変更の可能性があります)

13:30－13:40	開会挨拶および主題解説	全体司会: 廣井 悠 (名古屋大学) 山田常圭 (東京大学)
13:40－14:00	(1) 「東日本大震災における消防団活動に関するヒアリング調査の概要」	山田常圭
14:00－14:40	(2) 「津波火災地域での消防団の活動事例」	坂本憲昭 (東京消防庁)
	休憩 (10 分)	
15:00－15:30	(3) 「「おまえのおかげで助かった」の感謝のことばを胸に－大槌町における消防団の活動－」	鈴木亨 (大槌町消防団)
15:30－16:00	(4) 「気仙沼における常備消防と消防団の協力」	菊田清一 (元気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部消防長)
16:00－16:30	(5) 「地域防災における消防団の活動と課題」	高梨成子 (防災&情報研究所)
16:30－17:00	質疑・応答 閉会の挨拶	山田常圭

● 参加方法

- ・ 参加費用:無料(懇談会参加の方のみ 5000 円)
- ・ 定員:先着 70名
- ・ 事前登録:会場の席や資料の準備の都合もありますので、下記に、
参加氏名、所属、連絡先、懇談会の有無を頂きたいをお願いします。
- ・ 懇談会 :セミナー後、17:30~19:00 山上会館地階
こちらは会場の関係上事前登録が必要です(先着 30 名)

● 地図 :



http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html

【本件に関する問い合わせ先】

東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻
消防防災科学技術寄付講座 (担当者 吉永・高橋)
TEL:03-5841-7255, FAX:03-5841-7327
E-mail: shobo@fse.t.u-tokyo.ac.jp